

専用タグに反応映像を記録

防犯ゲート共同開発

ハイエレコンと三宅

ソフト開発のハイエレコン(広島市西区)と特殊印刷の三宅(佐伯区)は、監視カメラと専用タグを活用し、機密文書などの不正な持ち出しを防ぐセキュリティゲート

を共同開発した。管理者のパソコンに異常を通知するとともに、持ち出した人物などの映像を記録する。

ゲート本体は、高さ百五十センチ、幅二十七センチ

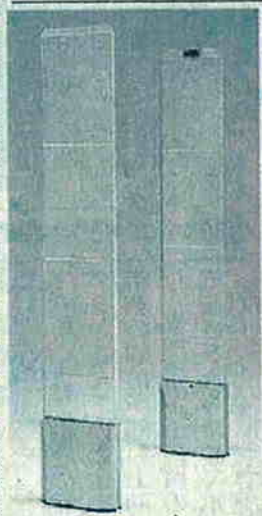
クリル板二枚などで構成し、片方に小型カメラとアンテナがある。重要書類や、個人情報を記録したノートパソコン、CD-Rなどの記録媒体にあらかじめ専用の共振タグ

を付けておけば、ゲート通過時に反応する。

一台のパソコンで離れた場所にある複数のゲートを確認できる。関連システムなどを含めゲート

一式の導入費用は百万円程度という。ソフト開発などはハイエレコンが担当し、共振タグなどは三宅が開発した。

両社によると、異常を



ハイエレコンと三宅が共同開発した監視カメラ付きセキュリティゲート

連絡し、本体に装着したカメラが連動して映像を記録するゲート式のセキュリティシステムはこれまでなかったという。

ハイエレコンは「個人情報保護法が施行されて以降、企業での情報管理の

中国ブロック経済

「ニーズは高まっている」として、来年末までに個人情報などを扱う企業や行政機関などへ百台の販売を目指す。

(和多正憲)